

上杉文華館 目録  
2022年5月26日（木）～6月21日（火）  
関東管領上杉氏③～越後守護

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 <small>うえすぎほん らくちゅうらくがいずびょうぶ 洛中洛外図屏風</small>	六曲一双	各178. 1×383. 2	原本	室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳 上杉博物館
国宝 上杉家文書 足利直義御教書 <small>あしかがただよしみぎょうしよ</small>	一通	3 1.8×4 9.0		康永2年 (1343) 正月27日	上杉博物館 文6 9 5
国宝 上杉家文書 足利直義御教書 <small>あしかがただよし みぎょうしよ</small>	一通	3 4.7×5 5.5		康永3年 (1344) 10月20日	上杉博物館 文6 9 4
国宝 上杉家文書 細川頼之奉書 <small>ほそかわよりゆきほうしよ</small>	一通	3 0.5×4 9.0		永和4年 (1378) 7月2日	上杉博物館 文1 7 3 9
国宝 上杉家文書 上杉憲実置文 <small>うえすぎのりざねおきぐみ</small>	一通	2 9.0×4 6.9		(文安元年 [1444] 9月カ)	上杉博物館 文9 1 1

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第3回目は、「越後守護」をテーマとして関連文書を紹介します。越後国は南北朝期に憲顕が守護に任じられ、その死後は末子の憲栄が継承、関東の上杉氏から越後上杉氏として分立しました。しかし、両氏は以後も密接な関係を維持していきました。今回は、越後守護の活動や基盤について紹介していきます。なお、越後守護は、15世紀の中ごろまでは京都で幕府政治に関わっていたので、現地で守護の職務を行ったのは守護代長尾氏でした。上杉謙信は、その守護代家に生まれました。